

# DEBUT 首長

三重県御浜町長 大畑 覚氏



おおはた・さめる 1950年御浜町生まれ。73年明治大学農学部卒。元町職員で健康福祉課長、総務課長などを経て、11年8月から14年3月まで副町長。同年9月、御浜町長選で現職を破り初当選した、高校と大学の同好会でコーラス部に所属。趣味はカラオケ。

## 若者呼びミカン農家後継者に 紀勢道事業化と防災に意欲

**御浜町** 三重県南部に位置し、北西部には紀伊山地、東部は熊野灘を望む。一年を通じて温暖で柑橘栽培が主産業。熊野古道のうち、町内には本宮道と浜街道（七里御浜）が残されている。紀州犬の発祥地。人口は9233人

——現職と元副町長との一騎打ち。町内融和と政策実行のスピードアップを訴え、現職を58票差で破った。

元副町長という立場での出馬は悩んだが、いろいろな施策を描いても、なかなか実行に結びつかないという思いがあった。柑橘振興と防災が町の最重要課題であるという認識は前町長と同じだが、取り組む手段は若干の違いがあるのかもしれない。住民との懇談を増やし、町長がリーダーシップを発揮しながら、発言したことは必ずやり遂げる姿勢を貫きたい。

——公約の中で、何を最優先に取り組むのか。

最優先に取り組むのは紀勢自動車道の開通だ。両隣の熊野市と紀宝町で事業が進む中、御浜町は取り残されている。計画路線にはなっているが、早期の事業化を実現したい。2つ目は防

災。約10kmの海岸線のうち、約3kmは海岸堤防が未整備だ。町内に63ある自主防災組織の活動を強化し、避難路の整備も進める。町立保育所の高台移転も検討している。

——産業政策については。

「年中ミカンがとれる町」というのが町のキャッチフレーズだ。柑橘振興が産業政策の第1の柱になる。最盛期の昭和40年代には柑橘類の生産額は約50億円あったが、いま20億円を切っている。収穫量では和歌山県や愛媛県に負けるが、味では負けていない。ここは九州に匹敵するくらい温暖でミカンに適した地域だ。早く熟するという利点もある。5年前からJAがタイへの出荷も始めた。高品質のミカンを生産者に広め、ミカン産業をもう一度浮上させたい。青果だけでは限界もあるので、加工品の商品開発なども側面支援をしていきたい。

——若者定住も公約だ。

ミカン農家は高齢者が増えており、後継者がいない。1ターンでもUターンでもいいので、ミカン農家の後継者になってく

れる若者を呼び込みたい。そのためには住む場所の確保も重要だ。新規就農者用の町営住宅であれば検討したい。防災面から高台に住宅を求める傾向もあり、荒廃地となった高台の農地の宅地化も進める。伝統行事を守るためにも若い人にきてほしい。高校を卒業した若者を町に引き留めるために、若者が技術を学び、職業訓練できる施設を作れないか。地元で起業してもらう仕組みも考えていきたい。

——昨年は熊野古道の世界遺産登録10周年だった。観光振興にはどう取り組むのか。

町には熊野古道の浜街道がある。観光PRは東紀州の自治体が広域で取り組んでいるが、町が独自に発信するものはなかった。若者対策と地域の活性化のためには観光もしっかり取り組む。ミカンを活用した観光も考えている。地元ミカンの直売施設を公設民営で開設したい。

(聞き手は

津支局長 岡本 憲明)